

經濟水道委員會

說明資料

平成29年6月30日
觀光文化交流局

1	堀川を活かした魅力向上推進事業	1
2	天守閣整備にかかる職員の体制等	2
3	名古屋城天守閣木造復元に向けた調査業務の主な内容	3
4	大阪城における大阪市と指定管理者の役割	4
5	名古屋城天守閣積立基金寄附者への特典	5
6	名古屋城本丸御殿積立基金への寄附実績	6
7	姫路城・熊本城の寄附実績	7
8	特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議石垣部会（平成29年6月23日開催） における構成員の主な意見	9

1 堀川を活かした魅力向上推進事業

(1) 内容

区 分	内 容
名古屋城エリアと四間道 エリアの連携事業	・時期：秋頃 ・船の乗降場所周辺及び移動導線等のライトアップ ・飲食店や宿泊施設等と連携した観光プランの開発 ・民間事業者による客船の自主運航
シンポジウムの開催	・時期：冬頃 ・規模：500人程度 ・内容：堀川の歴史紹介や他都市の先進事例報告、 パネルディスカッション など

(2) 住宅都市局・緑政土木局との連携

- ・水上交通を所管する住宅都市局や河川管理者である緑政土木局と調整を図りながら、魅力軸に位置する「名古屋のシンボルである名古屋城」と「昔のまちなみが残る四間道エリア」を堀川でつなぐことにより回遊性を高め、本市の魅力向上を図る
- ・堀川における水上交通拡充のための課題を整理する検討会に参画し、堀川の魅力向上の推進を図る

2 天守閣整備にかかる職員の体制等

(1) 体制

区 分	内 容
名古屋城天守閣 特別会計	名古屋城総合事務所 <pre> graph TD subgraph LeftChain [] direction TB L_Kan[主 幹] --- L_Sa[主 査] --- L_Ji[主 事] end subgraph RightChain [] direction TB R_Kan[主 幹] --- R_Sa[主 査] --- R_Ji[技 師 (2)] end R_Kan --- R_Kan2[増 員] </pre>
一般会計	ナゴヤ魅力向上担当部 <pre> graph TD direction TB Kan[主 幹] --- Sa[主 査] --- Ji[主 事] </pre>

(2) 主な増員理由

- ・石垣の調査に関して、石垣部会の開催回数が増える見込みであることから、有識者との調整業務、文化庁との協議・調整業務が増加するため
- ・設計業務の進捗に伴い、契約相手方である株式会社竹中工務店との交渉・調整が複雑化したために予想以上に業務量が発生する見込みであるため

3 名古屋城天守閣木造復元に向けた調査業務の主な内容

区 分	内 容
入場者数見込み及び収支計画の策定	・ 木造復元後の名古屋城への入場者数を人口推計・市場動向など多角的な視点により推計する ・ 本市が提供する関係資料をもとに、名古屋城天守閣を木造復元した場合の事業全体の収支計画を策定する
経済波及効果の推計	・ 天守閣を木造復元した場合の建設投資及び観光産業における経済波及効果を推計し、木造復元による効果を数値化する
民間活力の導入策の検討	・ 大阪城をはじめとした他都市事例のほか、民間活力を活かした管理運営、便益施設及び収益事業などにかかる民間活力の導入策を検討する
課題整理及び入場者数増加策の検討	・ 管理運営体制や営業時間、便益施設の老朽化など名古屋城のおもてなし環境等の課題の洗い出しを行う ・ 民間活力の導入や課題整理を踏まえ、名古屋城への入場者数を増加させる方策を検討する

4 大阪城における大阪市と指定管理者の役割

年 度 (入場者数)	区 分 (指定管理者)	内 容
平成26年度 (183万人)	指定管理（大阪 市博物館協会）	・施設の管理運営 大阪城天守閣 ・文化財の保存整理 ・天守閣における常設展示、特別展、テーマ展
	大阪市	・施設の管理運営 大阪城公園、大阪城野球場、大阪城西の丸庭園、豊松庵（茶室）、大阪城音楽堂
平成27年度 (233万人)、 平成28年度 (255万人)	指定管理（大阪 城パークマネジ メント共同事業 体）	・施設の管理運営 大阪城天守閣、大阪城公園、大阪城野球場、大阪城西の丸庭園、豊松庵（茶室）、大阪城音楽堂 （提案事業） ・既存施設の整備・活用 旧第四師団司令部庁舎、大阪城迎賓館、もと音楽団事務所（飲食、便益施設等へ改修） ・新たな施設の整備 駐車場の整備 大阪城公園駅前エリア、森ノ宮駅前エリアの整備検討 ・回遊性の向上事業 園内交通システムの開始 ・新たなイベント実施 ・観光案内事業 Wi-Fi の設置 ・既存売店の改修
	大阪市	・文化財の保存整理 ・天守閣における常設展示、特別展、テーマ展への企画協力

注 平成26年度は、大阪市より大阪市博物館協会へ学芸員を派遣

5 名古屋城天守閣積立基金寄附者への特典

(1) 募金箱による寄附

区 分	内 容
1 千円未満 (10 縁募金)	・ 募金の際に「住所・氏名およびメッセージ等」を記入できる

(2) 納付書及びインターネットを利用したクレジットカードによる寄附

区 分	内 容
1 千円	・ 体験型（抽選）
3 千円	・ 体験型（抽選）
1 万円	・ 体験型（抽選） ・ 年間入場券（1 年）
3 万円	・ 体験型（抽選） ・ 年間入場券（1 年） ○募金者証
5 万円	・ 体験型（抽選） ・ 年間入場券（1 年） ○募金者証 ○芳名板 ・ 内覧会招待
1 0 万円	・ 体験型（抽選） ・ 年間入場券（2 年） ○募金者証 ○芳名板 ・ 内覧会招待
5 0 万円	・ 体験型（抽選） ・ 年間入場券（1 0 年） ○募金者証 ○芳名板 ・ 内覧会招待
1 0 0 万円	・ 体験型（抽選） ・ 年間入場券（3 0 年） ○募金者証 ○芳名板 ・ 内覧会招待

注1 ○印については、団体・法人寄附者も対象

2 体験型の例：本丸御殿内での特別見学ツアー

3 高額寄附者（個人10万円以上、団体・法人100万円以上）に対して希望者には感謝状を贈呈

6 名古屋城本丸御殿積立基金への寄附実績

区 分	件 数	金 額	累計金額
	件	千円	千円
平成14年度	2,624	131,648	131,648
平成15年度	817	28,457	160,105
平成16年度	362	24,173	184,279
平成17年度	830	381,615	565,894
平成18年度	2,595	1,155,471	1,721,365
平成19年度	3,337	613,867	2,335,232
平成20年度	2,975	1,685,892	4,021,124
平成21年度	1,393	378,229	4,399,353
平成22年度	8,203	257,464	4,656,816
平成23年度	5,796	162,966	4,819,782
平成24年度	1,436	119,703	4,939,485
平成25年度	2,082	101,411	5,040,895
平成26年度	1,976	69,956	5,110,851
平成27年度	1,346	79,535	5,190,387
平成28年度 (決算見込み)	1,320	60,173	5,250,560

注1 平成17年度は「新世紀・名古屋城博開催委員会」より335,550千円、平成18年度は「財団法人2005年日本国博覧会協会」より1,000,000千円の寄附を受領

2 単位未満の端数処理のため、計が一致しない場合がある

7 姫路城・熊本城の寄附実績

(1) 姫路城（姫路市）

区 分	件 数	金 額	累計金額
	件	千円	千円
平成21年度	991	80,617	80,617
平成22年度	1,051	239,647	320,263
平成23年度	374	43,047	363,309
平成24年度	291	28,432	391,741
平成25年度	228	32,346	424,086
平成26年度	190	28,104	452,190

注1 姫路城大天守保存修理に活用

2 単位未満の端数処理のため、計が一致しない場合がある

(2) 熊本城（熊本市）

ア 旧一口城主

区 分	件 数	金 額	累計金額
	件	千円	千円
平成10年度	2,639	144,643	144,643
平成11年度	1,632	138,680	283,323
平成12年度	2,056	106,227	389,550
平成13年度	1,701	73,854	463,404
平成14年度	1,871	198,477	661,880
平成15年度	1,312	98,016	759,896
平成16年度	1,385	85,659	845,555
平成17年度	2,327	104,182	949,736
平成18年度	12,231	256,831	1,206,566

注1 熊本城本丸御殿をはじめとした本丸エリアの復元整備に活用

2 単位未満の端数処理のため、計が一致しない場合がある

イ 新一口城主

区 分	件 数	金 額	累計金額
	件	千円	千円
平成20年度	17,020	204,875	204,875
平成21年度	15,382	181,783	386,658
平成22年度	4,890	59,190	445,849
平成23年度	3,395	43,143	488,991
平成24年度	2,561	41,407	530,398
平成25年度	2,069	26,295	556,693
平成26年度	1,975	25,252	581,944
平成27年度	1,998	23,149	605,093
平成28年度	113	1,190	606,283

注1 熊本城全体の復元整備に活用

2 平成28年度は熊本地震まで

3 単位未満の端数処理のため、計が一致しない場合がある

ウ 復興城主

区 分	件 数	金 額	累計金額
	件	千円	千円
平成28年度	53,157	887,022	887,022

注1 熊本城全体の復旧・復元に活用

2 平成28年度11月から実施

8 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議石垣部会（平成29年6月23日開催）における構成員の主な意見

- ・調査内容は概ねこの方向でいいと思う
- ・天守台石垣において、復元を目指す基本的な考え方は良い。天守台石垣のみでなく、特別史跡全体の石垣をどのように修復、保存するか考えるべき
- ・再建時に積み直しされたであろう穴蔵部分など、城郭として機能していた時代の石垣を損ねたままのものがあある。それらの石垣も適切な時期に復元すると、天守閣木造復元の方針とも合ってくる
- ・全国の城郭において、修復の進め方は温度差がある。名古屋城の石垣はよそにない本質的な価値を有するため、全国の基準指標になるべき
- ・特別史跡である石垣の本質的価値を高めるということは、戦災後や昭和の再建時の積み直されてしまった石垣をあるべき姿に戻し、失われた価値を取り戻すということである
- ・天守閣木造復元事業における基本設計期間や天守閣復元工事の着工時期を、石垣調査工程案に照らし合わせると、石垣の調査後に「今後の取り扱いを決定する」時間がないのではないか
- ・方針では調査を行うことはわかるが、その調査の結果どのように修復するのか、保全措置の計画がない。石垣の保全、回復がゴールでなければならない
- ・前部会において、天守閣木造復元ありきの調査はだめだということになった。今回改めて計画を提示されたが、天守閣の解体が前提となっている。どう考えても木造復元ありきの調査である。前回も申し上げたが、いくら後で積み直すと言っても、木造復元のために石垣を毀損する計画はだめ。まず、文化財である石垣を調査し、長い期間をかけて石垣の修復を行い、その後に初めて天守閣をどうするか議論すべき
- ・保存活用計画が決定していない中で、木造復元が決まったかのような計画はおかしい

注 構成員名簿

氏 名	所 属 等
西田 一彦（座長）	関西大学名誉教授
北垣 聰一郎（副座長）	石川県金沢城調査研究所名誉所長
赤羽 一郎	愛知淑徳大学非常勤講師
千田 嘉博	奈良大学教授
宮武 正登	佐賀大学教授